

**【中国九州間連系線】
転送遮断システムによる電制量の
運用容量への織込みについて**

2019年5月24日

九州電力株式会社

■ 中国九州間連系線 平常時の運用容量について

- ・ 国の実証事業で開発した転送遮断システムについては、2019.4.1から運用容量の算出に適用。
- ・ 具体的には、中国九州間連系線の運用容量（中国向）のうち、九州系統の周波数上昇側の算出に用いる電源制限対象分として織り込み。

■ 中国九州間連系線 1回線停止時の運用容量について

- ・ 2018年度第3回運用容量検討会（2018.10.12）にて、中国九州間連系線の1回線停止時運用容量算出における安定化装置およびOFリレーによる電源制限対象分については、平常時と同様に運用容量として織込むことと整理したものの、転送遮断システムの対象発電機は発電事業者との申し合わせにより平常時のみの電制としていることから、1回線停止時には運用容量には織り込まない。

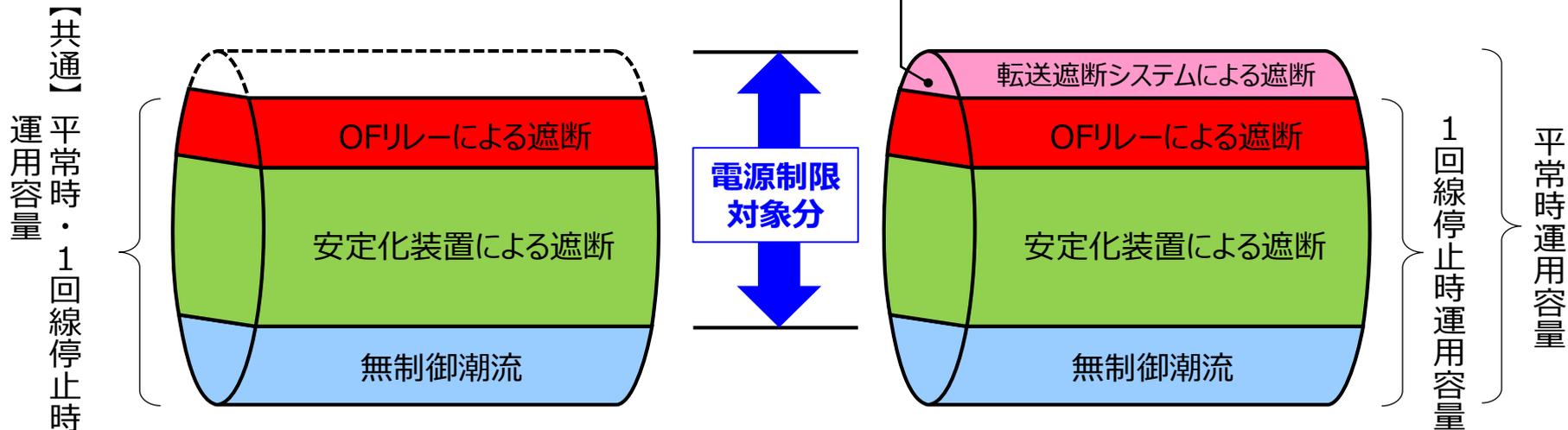
中国九州間連系線（中国向）

・九州系統の周波数上昇側が制約の場合の運用容量算出イメージ

見直し前

見直し後

対象電源の出力状況等に応じて、
運用容量に織込み



- 転送遮断システムによる電制量の織込み前の運用容量算出の考え方については、以下のとおり。

- 従来、1回線停止時運用容量算出において、電源制限対象分は確実に期待できるものとして、**連系線利用計画**等を考慮して電制対象電源の域外送電分のみを織り込んでいた。
- 今後は連系線利用登録が停止し、域外送電分が不明になるため、平常時と同様に対象電源の**発電計画**等を考慮し、運用容量として織り込むこととする。

【1回線停止時の運用容量算出イメージ】

